

豊寿園

FRUITFUL TREE

豊かな樹

Autumn 2017

Vol. 36

JAPANESE RED CROSS
SOCIETY FUKUOKA
PREFECTURAL CHAPTER
THE SPECIAL NURSING HOME
HOJYUEN

TOPICS

MORE CROSS

HOJYUEN'S ALBUM

AREA INFORMATION

CARE MEMO

HOJYUEN×FAMILY

SPECIAL SECTION



トピックス

ボランティアさんとの意見交換会を開催しました！

8月24日、ボランティアさんとの意見交換会を開催しました。今回は門司区福祉ボランティア一期会さんと様々な意見を交わしました。今後も、その他のボランティアさんとも随時開催していく予定です。



救急法の研修会を行いました！

9月9日、職員研修として救急法を学びました。当日は職員の他に、豊寿園で活動いただいています、北九州赤十字看護奉仕団じゅんの会からも7名ご参加いただき、AEDを用いた心肺蘇生法の手技について学びました。



介護職員の接遇研修会を開催しました！

8月30日、九州にある赤十字が運営する老人ホームの介護職員が集まり、接遇を学ぶ研修会を開催しました。オフィス荒武の荒武千津子先生を講師に、挨拶の仕方や利用者様との接し方などを講義、ロールプレイを通して学びました。



メンタルヘルスの研修会を行いました！

8月30日、公益財団法人介護労働安定センター福岡支部を通じて、プロGRESS代表の河津佳江先生にお越しいただき、メンタルヘルスの全体研修会を行いました。ストレスとの向き合い方や、ストレスを抱えた際の対応方法などを学びました。



消防訓練を行いました！

9月20日、今年度第1回目の消防訓練を行いました。今回は夜間帯にボイラー室から出火したという想定で、初期消火や通報の訓練のほか、消防隊が到着するまでの間に、実際に何名の方を避難誘導できるかなど、マニュアルの検証作業も行いました。



9月2日 校区の防災訓練に参加しました！

北九州市門司区松ヶ江北校区で行われた、防災訓練に豊寿園職員も参加しました。今回の訓練は、校区自治会のある市民センターが災害時に避難所として開設し、地域住民を受け入れるという実践的な訓練でした。



とっど クロス! 計画

8月3日 夏休み福祉体験講座が開催されました。

毎年恒例の門司区社会福祉協議会主催の夏休み福祉体験講座が園内で開催されました。今年のテーマは「しあわせをつくる介護のしごと」。参加された小学生に介護、看護のお仕事体験や、利用者様との交流で介護の楽しさを感じていただきました。当日の様子は毎日新聞にも掲載されました。



9月26日 松ヶ江中学校で福祉体験授業

北九州市立松ヶ江中学校で行われた福祉体験授業に、坂根通所介護係長が出講し、車椅子の操作方法を指導しました。



9月27日 松ヶ江北小学校との交流事業

毎年恒例の松ヶ江北小学校との交流事業。第1回目は奥水介護課長による「介護のお仕事紹介」、2回目は荒木通所介護係長による認知症サポーター養成講座の出前授業を行いました。





敬老会

9月 敬老会を開催しました。多数のご来賓、ご家族の見守る中、今年度、喜寿・米寿・白寿・100歳超を迎えられた利用者様に豊寿園からのお祝い状をお贈りしました。



昼食のお祝膳。
利用者様お一人おひとりに園長がお挨拶。

一期会の前畑様と
門司AVEの会 藤本
様にボランティア表彰
を贈呈。

家族会から記念品の贈呈。

たくさんのご来賓にお
越しいただき、御祝辞
をいただきました。



バスハイク

7月 ご家族とサンリブシティ小倉へお出かけ。一緒にお買い物やティータイム、占いなどをお楽しみいただきました。



音楽鑑賞会

8月 三線による沖縄音楽の鑑賞会。やさしい演奏でゆったりとした時間が流れました。



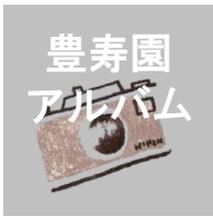
買い物

8月 園内でのお買い物。好きなお菓子や飲物を買って、お楽しみいただきました。

納涼会



8月 皆さん浴衣や甚平を着ておめかしして納涼会に参加されました。色んな出店やスイカ割りにお菓子釣りなど楽しまれ、最後に炭坑節を踊りました。



おやつ作り

屋外活動



9月 敬老会の日に、お祝いのおはぎ作り。あんこやきな粉を付けてひとつひとつ丸めて作りました。上手に出来ましたよ。

天気が良い日は、中庭でおやつを食べたり、ミニ菜園で野菜を育てて収穫しています。大きなキュウリが採れたでしょ。

地域ぶらり情報



門司港で味わうシルクロード

門司港地区に築100年の古民家（長屋）を改装した、ライトブルーとピンクの可愛い外観のお店があります。オーナーの中川グリシェン裕美さんは、「門司からウイグルの魅力を広めたい」という想いから2015年3月にお店をオープンしました。『グリシェン』とは現地でいただいた名前で、『花壇』という意味があります。店内は、中国の新疆ウイグル自治区に26年通い続け集めた、アトラス絨やスザニという伝統的な刺繍を施した生地の衣装や雑貨が並び、エキゾチックな空間が楽しめます。伝統民族衣装を着用しての記念撮影も出来ます。ぜひ味わって欲しいのは、ウイグル地区の料理であるラム肉の炊き込みご飯『ポロ』とラム肉ハンバーグ。現地の伝統料理であり、おもてなしの品でもある一品です。門司港名物の焼きカレーとセットになった『ハーフ&ハーフ』や、スイーツ、ドリンクとのセットもあります。『ウイグルチャイ（スパイスハーブティー）』も一度ご賞味ください。気になった方は是非、『グリシェンカフェ』に行ってみてはいかがでしょうか。

古民家チャイハナ グリシェンカフェ

北九州市門司区本町3-4
TEL 090-2802-2524
定休日 火曜・ときどき水曜
OPEN 11:00~23:00



あとがき

このところ続く社会福祉施設で起こったニュースを目にするたび、同じ社会福祉に携わる者として心が痛みます。世の中の社会福祉に対する信頼が揺らぎつつある中、今も目の前の利用者様に誠心誠意向き合っている多くの職員がいるということが忘れられていくような気がして残念でなりません。

豊寿園は、20周年を迎え、園長のもと、初めての職員全体会議を開催しました。職員皆が、基本理念である「人道・博愛・奉仕」を改めて胸に刻み、日々の業務に臨んでいます。

ご利用者、ご家族、地域の皆様と今後もより良い関係を築いていけるよう、豊寿園の様々な取り組みを発信し続けていくことがその一助になることを願いつつ、今回も無事「豊かな樹」を発行することが出来ました。職員一人ひとりの頑張りを感じて頂けたら幸いです。今後も豊寿園の広報活動に乞うご期待下さい。

平成29年度広報委員 森 英樹

今回のCOVER



今回表紙を飾ってくれたのは、徳永 優さん（特養1階介護主任）と徳永真弓さん（特養2階介護職員）のお二人です。昨年結婚したばかりの新婚さんです。真弓さんのお腹にはベイビーも。真弓さんが産休に入る直前に撮影に協力してくれました。

介護一口メモ CARE MEMO

今回のテーマは「火災」についてです。
高齢者の住宅火災による被害が増えているそうです。

— 住宅火災で亡くなられた方の多くは65歳以上の高齢者です —

空気が乾燥してくるこの時期。これから冬にかけて万一の火災が心配になってきます。北九州市内で発生している住宅火災では、不幸にも亡くなられ方の多くは65歳以上の高齢者だそうです。

厚着をしていて、こんろの火が服に燃え移ったことに気がつくのが遅れたり、鍋を火にかけてままなのを忘れてしまったりと、原因はさまざまです。

今一度、ご家庭内のこんろやコンセントの周りなど、火災発生の危険がないか確認し、火の取扱いには十分注意しましょう。

住宅防火 命を守る7つのポイント!



3つの習慣

寝たばこはしない。



ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。



ガスこんろなどのそばを離れる時は、必ず火を消す。



4つの対策

逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器の適正な設置と維持管理をする。



寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防災品を使用する。



火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。



お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。



電化製品や配線などへの防火対策

テレビや冷蔵庫、洗濯機などのプラグが何年も差し込まれたままになっていると、ほこりが原因で火災になることもあります。



あなたと向き合った日々 HOJJYUEN × Family

今回、荒木施設介護係長のインタビューを受けてくださったのは、寺岡 洋子様です。ご自宅での介護を経て、現在はお母様が豊寿園にご入所されています。そんな、寺岡様にご自宅での介護の体験談についてお聞きしました

— 同年代の方と二人で
支えあっていたようです。—



今回インタビューに応じてくださった
寺岡 洋子様
お母様がご自宅での介護を経て豊寿園に入所されるまでの体験談を語って下さいました。

母は大分県に7人兄弟の6番目として生まれ、同じ町に住んでいた父と20代前半で結婚してから門司に移り住んでいます。ただ、父が若くして亡くなったので、母は私たち三人の子供を育てながらひとりでお店を構え商売を切り盛りしていました。

私達子供が巣立つてからは独り暮らしでしたが、母の家のお向いに同年代の方がいらつしやつて、二人でかみ合わない会話をしながらも支え合っていたようです。でも、その方が入院することになって、ご近所からの支えがなくなつたのをきっかけに、母はいよいよ一人暮らしが難しくなつたように思います。

—あまり認知症の介護が大変という
思いは感じていませんでした。—

母は、平成24年頃から物忘れが目立つようになってきました。その年の11月頃になると、「夜中に人が来る」「泥棒が仏壇を壊した」等と言つて騒ぐことが増えてきました。

心配だったので、一緒に総合病院の物忘れ外来を受診したら、アルツハイマー型認知症と診断されました。

当時から私も仕事をしていましたが、合間をみて自宅と母の家とを行き来して、食事の世話などをしていました。その頃の母は夜中に起きてゴソゴソすることもありましたが、それも1時間ぐらいたらすぐ寝ていましたし、あまり認知症の介護が大変という思いは感じていませんでした。



— 1年寄りの独り暮らしは危険がいつば
いなんだと思ひ知らされました。—

その頃、ふと母の家に泊りに行けない日には母が一人でどうしているか心配になつたんです。それで、母には内緒で母の家の中にカメラを設置してみました。しばらくして、そのカメラの映像を見てみたらびつくり！母の家に泥棒が入つてきた所が映つていたんです。やっぱり、年寄りの独り暮らしは危険がいつばいなんだと、その時改めて思ひ知らされました。



50代の頃のお母様。厳しくも、頼もしいお母様だったそうです。

あわてて地域包括支援センターに相談に行ったら、「自宅一人でしておかない方がいい」とアドバイスをされました。それですぐに介護保険の申請をして、ケアマネさんにデイサービスとショートステイを使うようにしてもらいました。事業所を選ぶ時、将来的に自宅で生活ができることを考えて、入所ができる特養に併設されている事業所を選びました。それで利用を始めたのですが、母はサービズ利用中にたびたび職員さんや他の利用者さんとトラブルを起こしてしまいました。ショートステイ中には、夜中に電話で施設に呼び出されたこともありました。そういうことが繰り返したかったので、その特養には入所の申込みもしていたのですが、結局、利用を断られました。

「職員さんや他の利用者さんとトラブルを起こして・・・。」

そんな頃、私が母の家に行くとき味噌汁の鍋を火にかけておぼやかしにして、汁が全部蒸発してしまっていたことがありました。母はタバコも吸っていたので、とにかく火の不始末を心配していました。また、以前にも増して、「鍵を無くした!」と大騒ぎをして警察に電話したり、近所の方に言ってもらえるようになり、近所の方は「いよいよ自宅は限界かな」と感じました。もう一度、母が入所できるところを探そうと思いました。いろいろな事業所を見て回り、ケアマネさんの紹介で平成28年7月から豊寿園のショートステイを利用し始めました。でも、やっぱり夜間、母は眠れなくて「ここは私の家だから、みんな帰らなさい」と言っていて、寝ている方を起こして回ったり、不穏な行動を繰り返すようになりました。職員さんからの勧めもあつて9月に精神科の病院へお薬の調整をするために入院することになりました。入院前に担当の先生と話をしている時、母が何を思ったのか「うれしーありがとー」って、子供みたいに手を叩いていたのです。それを見て、「ああ…私の知らない間に、こんなにも認知症が進行していたんだなあ…」って強く実感しました。

「いよいよ自宅は限界かな」と感じました・・・。」



寺岡様とお母様でお買い物に出かけられた時の写真。夜中に眠れない時、お母様は娘さんの名前を呼びながら、棟内を歩かれていました。

病院を退院する事になったタイミングで丁度、豊寿園に入所することができました。もともと、私一人じゃいずれば面倒みれなくなる時が来るって思っていましたから、急な入所ではありましたが、葛藤なんかはありませんでした。今では仕事が終わってから、豊寿園に行つて母と一緒に散歩したり歌をうたったり、ゆっくり寄り添うことができています。

「急な入所ではありましたが葛藤なんなんかはありませんでした。」

座

談

会

You were young in those days.

— どうして豊寿園に就職したいと思ったのですか？ —

長崎：私は学校を卒業後、一般事務や病院の栄養士をしながらパン屋を開く夢を追いかけて修行？していました。丁度、体力的にも現実的にも悩んでいた時期に、友人から豊寿園の求人の話を聞いて応募しました。当時は日赤？特養？、ニッセキ・ガソリンスタンド？っていう位、何も知らないで入職しちゃってました。

堀田：私は看護師なので日赤はもちろん知ってましたけど、日赤が特養のような社会福祉事業も展開しているなんて知りませんでした。当時、施設で看護師として働くことに興味を持っていたので、どうせ働くなら日赤で！と思って応募しました。



— 入職当時のエピソードなどあれば教えてください。 —

堀田：病院との違いにいろいろと驚いてばかりでした。入職してすぐに50人の入所者様の検温や配薬などするようになって、看護師の人数の違いなどにも戸惑いました。

家中：昔、家から出るのをとても嫌がる利用者様がいらしたんですが、朝、お迎えに行くと、奥様から「2階に行ってください！」と言われ上がって、押入れを開けてみると、ご本人が押入れの中で天井の梁を持って隠れていたんです。「わー。びっくりした！」と叫んでました(笑)。その後回数を重ねていく中で、お迎えに行くと笑顔で迎えていただけようになったのはうれしかったですね。



T A L K × T A L K

— 昔と今とを比べると、どこが、どう変わったと思いますか？ —

長崎：前は仕事の後によく走っていましたが、今は週末しか走れなくなったことですかね(笑)。体力は落ちましたね。。

堀田：昔に比べると、利用者様の医療的なニーズが増えてきましたけど、一番は看取り介護を始めたことですね。

— これから豊寿園で成し遂げたいことはありますか？ —

堀田：「認知症といえば豊寿園」と言われるようになっていきたいですね。このまま健康であれば定年まで勤め上げたいです(笑)。

家中：これからも、人との和を大切に笑顔で利用者様と過ごせれば良いなと思います。

長崎：地域に根付いた施設になる事ですかね。あと、食を通して利用者様が楽しい・嬉しいと感じてもらえるひとときを提供していきたいです。



SPECIAL SECTION

THE HISTORY OF HOJUYUEN

豊寿園の歴史を彩ってきた職員達を、順番にご紹介していくコーナーです。6回目は、平成16年～17年に入職した職員3名をご紹介します。



同期入職者の紹介 You were young in those days.

堀田 浩子

医務課 看護副主任

平成16年に??歳で豊寿園に入職。デイサービスでの勤務を経て、現職。医務課で一番のベテラン看護師。趣味は剣詩舞道。

長崎 真紀子

事務課 栄養係長

平成17年に35歳で豊寿園に入職。以来、厨房で管理栄養士として勤務。平成27年より現職。特技の韓国語を活かして韓国との交流事業でも活躍中。趣味は韓国旅行。

家中 登喜江

デイサービス 介護職員兼生活相談員

平成17年に50歳で豊寿園に入職。一時、ヘルパーステーションでの勤務を経て、現職。デイサービスで一番のベテラン介護職員。趣味は温泉めぐり、山登り。



OFF



OFF



OFF

2017

Vol. 36

JAPANESE RED CROSS
SOCIETY FUKUOKA
PREFECTURAL CHAPTER
THE SPECIAL NURSING HOME
HOJYUEN



Autumn 2017

Vol.36

TOPICS

MORE CROSS

HOJYUEN 'S ALBUM

AREA INFORMATION

CARE MEMO

HOJYUEN X FAMILY

SPECIAL SECTION

FRUITFUL TREE

JAPANESE RED CROSS SOCIETY FUKUOKA
PREFECTURAL CHAPTER THE SPECIAL NURSING HOME HOJYUEN